



小学校の先生になったダサリさん

チャイルド・スポンサーに支えられ夢をかなえた少女のストーリー

たった一通の手紙が変えた未来

ホンジュラスに住むダサリさんは、貧困やギャングによる暴力が横行する環境で育ちました。恐怖におびえ、未来にも希望が持てない日々。ある日、そんな彼女のもとに一通の手紙が届きます。それは、彼女のチャイルド・スポンサーであるアンジーさんからのものでした。

手紙の中で「小学校の先生として働き始めたの」と語るアンジーさんの言葉は、当時15歳だったダサリさんの胸に強く響きました。暴力や貧困に支配される人生が当然ではないのだと気づいた彼女は、ワールド・ビジョンが実施する様々な研修に積極的に参加し、さらには「自分が学んだことをほかの人にも伝えたい」と、教師になることを決意したのです。

夢をかなえ、先生になる

ダサリさんは努力を重ね、ついにアンジーさんと同じ教師として働き始めました。地域の学校で子どもたちを教える傍ら、ワールド・ビジョンのスタッフと協力し、ほかの地域の子どもたちにも学ぶ場を提供しています。

一通の手紙がつないだ希望

ダサリさんは、アンジーさんに直接会ったことはありませんが、もし彼女に会えたら何を言うだろうと何度も心の中で唱えてきました。『私の人生の一部になってくれてありがとう』『あなたの支援のおかげで、私は搖るがない信念と価値観を持てるようになりました』チャイルド・スポンサーから届いた一通の手紙が、一人の少女の人生を変えました。ダサリさんは今、自分が受け取った愛と支えを、次の世代へとつないでいます。



授業の様子。生徒に寄り添い、丁寧に教えます。

あなたも、チャイルドに喜びを届けませんか？

あなたのご支援が、ダサリさんのような子どもたちの勇気と希望になります。チャイルド・スポンサーシップのお申し込みは、お電話またはWEBからご連絡ください。また、ご家族やご友人にもぜひチャイルド・スポンサーシップをご紹介ください。

▶ 電話でのお申し込み

03-5334-5351
(平日10:00-17:00)

▶ WEB からのお申し込み

ワールド・ビジョン



World Vision News

205

2025年夏号
ワールド・ビジョンニュース

戦火や災害を越えて

1億 2260万人の難民・国内避難民の
子どもたちの未来と笑顔のために

6月20日は、「世界難民の日」



紛争下で避難生活を送る子どもたち アフガニスタン

戦火や災害を越えて 1億2260万人の難民・国内避難民の未来を変えていく

6月20日は、国連で制定された「世界難民の日」。難民とは、紛争や天災等から国境を越えて避難する人を指しますが、昨今は国内での避難（国内避難民）も増加しています。

長年の紛争の影響

シリア

民主化運動「アラブの春」の余波を受けた、平和的な抗議活動が武力衝突に発展（2011年3月）。2024年12月に政権崩壊したが、今も不安定な状況が続く。長年の内戦で1300万人近くが国内外に避難し、人道支援を命綱とした生活が続く。

アフガニスタン

米国同時多発テロ事件（2001年9月）を主導したと認定されたことから、国際的な軍事介入を受ける。2021年に米軍が撤退するが、長年の紛争による社会の荒廃、国際社会からの経済制裁や、大地震や干ばつ等の自然災害が重なり、人口の9割が貧困に直面。

甚大な自然災害の影響

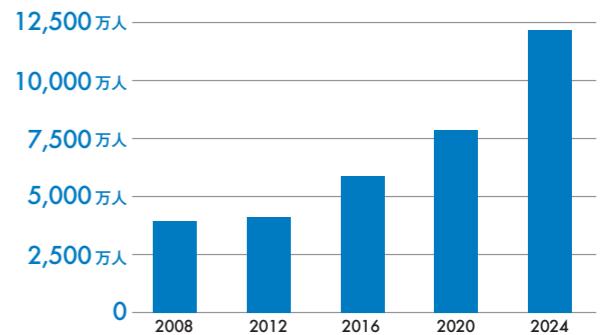
巨大化したサイクロンやハリケーン等で、農作物や住居が流失。また深刻な干ばつで作物が育たず、飢餓が拡大。自然災害から命を守るために、家を離れる人も年々増加。

数字で見る難民・避難民の今

2024年半ばまでに、世界で1億2260万人が、紛争や自然災害等で避難を余儀なくされ、その数は増え続けている。

出典：<https://www.unhcr.org/refugee-statistics/data-summaries>

難民・国内避難民の推移



難民・避難民の主な出身国（上位4カ国）



紛争や自然災害の影響下で暮らす子どもたち

紛争や自然災害から避難する難民・避難民は、1億2260万人を越えました。日本の人口に匹敵する数の人々が家を追われ、その4割は、18歳未満の子どもたちです。こうした子どもたちは、日常的に破壊、暴力や死を目の当たりにし、多くの危険に直面しています。

学校で爆撃に遭う。大混乱のなかで保護者とはぐれて誘拐される。子ども兵として徴用される。避難のために学校を離れ、家計を支えるために働く。まだ幼いうちに結婚させられる。

紛争下の危機と隣合わせの暮らしの中で、「大きくなったら、こうなりたい！」といった夢を描き、学びや遊びを通じて成長していく子ども時代が、失われています。



爆撃された乗用車（シリア・アレッポ市街）



がれきの横で暖を取る子どもたち（トルコ・シリア大地震）

すべての子どもたちが自らの力で人生を切り拓けるように

緊急時に、支援物資を提供して終わるのではなく、その後の子どもたちの自立まで長く寄り添う、それがワールド・ビジョンの強みです。本当に解決すべき課題が、地域に長くとどまるところで見えてきます。支援事業の最前線では、節目ごとに、支援地の子どもたちにヒアリングを行い、子ども視点での事業評価を通じて必要な支援を見極めます。例えば、傷ついた心のケア、成長期に欠かせない食糧支援、安全な居場所や、補習授業の提供等、一人ひとりに必要な支援は、多岐にわたります。

ワールド・ビジョンが、危機のさなかにある子どもたちに行う支援



紛争の影響下の教育支援（中東ヨルダン駐在・池之谷スタッフ）

◎命を守るために

緊急事態の発生直後に、安全な水や食糧、身を守るためのシェルター（避難所）等を提供。混乱の中で保護者とはぐれた子どもや、人身売買などの犯罪に巻き込まれる子どもを保護します。

◎未来を築くために

破壊や暴力、死を目の当たりにした子どもたちの心のケアや、学びの空白を埋める補習授業の実施。安全な居場所の提供。難民と受け入れ地域の子どもたちのレクリエーション活動等を通じた相互理解の促進を行います。

皆さまの温かいお気持ちとともに、ワールド・ビジョンの届けた支援

シリア危機 2024年の実績

支援を受けた人数：540万人（うち子ども290万人）
教育支援：子ども15万人
生計安定の支援：大人16万人



アフガニスタン危機 2021年8月～2024年1月の実績

支援を受けた人数：518万人（うち、子ども250万人）
教育支援：子ども28万人
医療、栄養、心のケア：大人109万人、子ども84万人
水・衛生支援：大人26万人、子ども28万人

ウクライナ危機 2022年から2024年の実績

支援を受けた人数：213万人（うち子ども97万人）
教育支援：子ども27万人
心のケア：子ども12万人
現金給付の支援：大人62万人

▲ウクライナの子どもたちの安全な居場所（チャイルド・フレンドリー・スペース）
屋外で空襲警報のサイレンが流れる中、建物の地下で運営されている

希望を失ったバナさんが、再び夢を取り戻すまで

心のケアと教育支援は、今も紛争の影響で苦しむ子どもたちの未来を支える力になります。

シリアのバナさん（仮名）は、12歳の時に爆撃で両親を亡くし、幼い弟と妹を連れて避難所を転々としていました。その後、祖父母に引き取られ、ワールド・ビジョンの支援する学校に通い始めました。しかし、深い喪失感から次第に心を閉ざし、誰とも話さず孤立し、授業にも集中できずにいました。その様子に気づいた先生が、専門スタッフと連携して個別のカウンセリングがスタート。ようやくバナさんは感情を整理して、心にある想いを話すことができるようになりました。

「小さな薬局で働く両親の姿や母の温かい抱擁、そして爆撃の日に帰らぬ人になったことを何度も思い出してしまう。でもこれからは、亡くなったふたりのためにも、英語を学んで修士課程に進みたい。弟と妹にも勉強を続けてほしい」と語ります。



カウンセリングを受けるバナさん

スタッフの想い 「難民・避難民が、今の困難を乗り越え、安心して暮らせる未来を」



支援事業部
岩間 縁
いわま ゆかり

東京外国语大学外国语学部（ペルシア語専攻）卒業。
民間企業での勤務を経て、イースト・アングリア大学
大学院（英国）にて教育と開発学を修了。2016年、
ワールド・ビジョン・ジャパン入団。現在、支援事
業部にて主に中東（ヨルダン、アフガニスタン）地
域の教育支援を担当。

大学時代、イラン留学中に出会ったアフガニスタン出身の友人がいます。顔立ちが日本人とそっくりな彼女が語る、アフガニスタンでの紛争や、避難先での生活や差別。個人ではどうしようもない困難や理不尽。それらを受け止め、乗り越えていく彼女の姿が、私が人道支援に関わる原点になりました。

時を経てワールド・ビジョンに入団し、初めて担当したのはシリア難民の子どもたちの教育支援。子どもたちが描いてくれた絵や工作は、今も私の大切な宝物です。そして今、ウクライナ、シリア、スーダン——世界各地で紛争が続き、多くの人が故郷を追われています。支援は一時的なものではなく、彼らとともに困難を乗り越え、安心して暮らせる未来を共に築くこと。その覚悟とビジョンを持ち続けることが、私たちの使命と考え、日々の業務に取り組んでいます。

報告会のお知らせ：ワールド・ビジョンの難民・避難民支援活動について

2025年6月中旬に、活動報告会を準備中です。支援事業部の岩間スタッフ他、事業に関わるスタッフから事例紹介や成果や課題について、皆さまにお伝えします。日時、会場等の詳細が決まり次第、ワールド・ビジョン・ジャパンのホームページにて掲載いたします。

難民支援募金のご案内



長引く紛争で学びを失う難民の子どもたち。 今、あなたの支援が希望になります

紛争下の子どもたちは、日常的な暴力や死、破壊を目にしています。未来の担い手となる子どもたちの心身を守り、学びの機会を届けるため、皆さまのお力を貸してください。





チャイルド・スポンサーシップ 支援地訪問ツアーレポート

2025年3月某日、実に6年ぶりとなる支援地訪問ツアーが開催されました。今回、ルワンダの3つの支援地域（グヴィザ地域・キラムルジ地域・ニヤガタレ地域）を訪れ、チャイルドとの交流に加え、支援を受けた家庭や学校への訪問、コミュニティワークへの参加、支援地での研修やプロジェクトの現場視察などを実施。地域での支援の様子や成果を見聞きし、実感する事のできる時間となりました。



計19名のチャイルド・スポンサーの皆さん方が参加されました。

・チャイルドとの交流

見晴らしのよい湖畔でチャイルドと対面！チャイルドも、この日を本当に楽しみに待っていてくれたとのこと。恥ずかしそうにしながらも、嬉しそうな様子が印象的でした。



チャイルドのお母さんが、とても一生懸命に、そして幸せそうに家の写真を見せてくれて、チャイルドだけでなく、家族の力にもなっていたのだと思えました。



・地域の小学校での 果物の苗の植樹体験



マンゴーやアボカドなどのフルーツの苗を植えるコミュニティワークに参加。子どもたちとともに、この木が大きく育っていくことを願いを込めて、丁寧に植えます。

・「平和の木プロジェクト」視察

民族間での対立から隣人間の虐殺という悲しい歴史を持つルワンダにて、ワールド・ビジョンが行う象徴的なプロジェクト。プロジェクトに参加した当事者の方から話を聞きました。立派に育った木が、悲惨な歴史から力強い再生を思わせてくれます。



加害者の方が、交流を続けた被害者の方のお嬢さんの結婚式に出席したこと。時間をかけて人と人が許し合い、心動かされました。



大きく育ったアボカドの木

参加者 の声

チャイルド自身に、チャイルド・スポンサーというものがどのように認識されているのか、いまいち分からなかつたのですが、予想以上に出会いを喜んでくれ、『遠い国から自分を応援してくれる人がいる』という存在になれていたのだと知ることができました。

チャイルドに会ってお互いの目を見て、普段は会えなくても想いは通じていたんだなと確信し、「言葉や距離を超えて想うこと」の大切さを感じました。恥ずかしがりながらも私達との交流をとても楽しんでくれた様子に、これからもたくさん交流したいと胸が熱くなりました。



・幼稚園訪問

支援によって建てられた幼稚園を訪問。子どもたちは、集めた野の花の花束と歌で歓迎してくれました。よりよい学びのために、先生方は教材や指導に工夫をするなど熱心です。

これからの国を背負っていく子どもたちが、「僕たちに任せてよ！」と元気いっぱいに歌っている姿が可愛らしく、頼もしかったです。



・「栄養ある食事の作り方研修」の視察

栄養不良の子どもを持つお母さんたちを対象とした、栄養改善を目指した研修を見学へ。研修では、地元で採れる食材を使った食事の作り方講座や、手洗いなどの衛生指導を行っています。ワールド・ビジョンの支援前は、栄養不良により亡くなる子どももいたそうですが、支援が始まってからは、死亡数は0人になったそうです。



子どもにとって大事な栄養を知ることが出来ました



ツアーレポートは、ホームページやSNSなどでもお伝えしています。ぜひチェックしてみてくださいね！

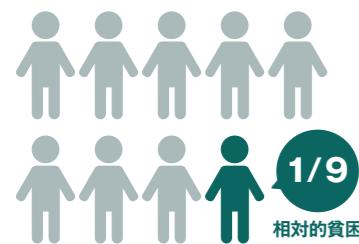
日本社会ですべての子どもが豊かに成長するために “子どもの権利”を守る取り組み

ワールド・ビジョン・ジャパンは、「国内子ども支援事業」を実施しています。その中心には、日本において子どもの権利が当たり前に守られ、子どもたちが安全に安心して豊かな命を生きられるようにとの願いがあります。日本の子どもを取り巻く状況と、ワールド・ビジョン・ジャパンの取り組みについて、「子どもの権利条約」に沿って解説します。

子どもの権利条約とは？

子どもの権利条約は、世界のすべての子どもが持つ基本的人権を定めた条約です。1989年に国連で採択され、日本は1994年に批准しました。

日本の子どもを取り巻く状況



日本では、9人に1人の子どもが相対的貧困にあります。家計が困窮し、経済的理由で習い事や進学を断念する子どもたちや、十分な食事をとれずにいる子どもたちがいます。※1 また、家庭の抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中で、子どもが安心して過ごせる居場所が少ないことも問題になっています。※2

※1 参考文献：厚生労働省「2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況」

※2 参考文献：子ども家庭庁「子どもの居場所づくりに関する指針（令和5年12月22日）」

ワールド・ビジョン・ジャパンの取り組み



〈第28条 教育を受ける権利〉を守るため

- ・地域で活動する無料塾を通じて、子どもの特性に応じた学びの環境を提供しています。
- ・全国入学お祝い金の給付により、中学・高校進学に必要な支出を貯めるよう家計を支えています。



〈第6条 生きる権利・育つ権利〉を守るため

- ・地域の子ども食堂を通じて、子どもたちに地域の人との交流や豊かな食事の機会を提供し、家庭の食生活を支えています。



〈第31条 休み、遊ぶ権利〉を守るため

- ・放課後や長期休み中に、子どもたちが安心して過ごせる居場所「みんなのへや」を、東京都中野区で運営しています。



〈第19条 暴力などからの保護〉〈第31条 休み、遊ぶ権利〉等を守るため

- ・全国の民間シェルター等を通じて、虐待やDVなどから避難する子どもやおとなを支えています。



〈第12条 意見を表す権利〉〈第42条 条約の広報〉等を守るため

- ・子どもの権利の大切さを社会に広く伝え、社会の変革を促すため、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」の実行委員団体として活動しています。
- ・中野区の図書館や中学校と連携し、毎年11月頃に「子どもの権利写真展」を開催しています。

大切な財産を、子どもたちのより良い未来につなげるお手伝い “遺贈寄付”の取り組み

時代とともに家族の形が変わり、近年では独身や子どものいない夫婦など、相続人がいない方も増えてきました。相続人がいない場合、遺産は国庫に帰属しますが、遺言によって財産の一部またはすべてを非営利団体などに寄付し、「生きた証」を後世に残すことができます。これを「遺贈」といいます。

「“生きた証”を残したい」～Yさまのストーリー～

Yさま（70代女性）も、相続人がおらず、遺贈を選択したお一人です。ご自身の病気が発覚し、遺言書の準備をするためにインターネットでさまざまな非営利団体を調べ、ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）にご連絡をくださいました。担当スタッフからWVJの活動内容や、遺贈で実現できる支援についての説明を受けたうえで、WVJへの遺贈をご決断。遺言書には、ご自身の想いを残してくださいました。



Yさまの尊いご遺志を尊重し、ご遺産は学校建設支援事業等のために役立させていただきます。またYさまのご要望をうけ、活動内容は遺言執行者にご報告する予定です。

「ワールド・ビジョン・ジャパンへの寄付
は、学校の建設のために使ってください。
生きた証として記念プレート等をのこ
してほしいと思います」

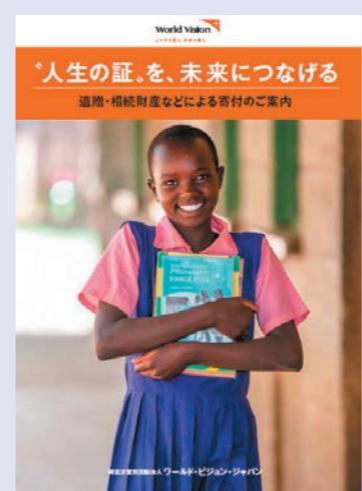


お気軽に問い合わせください

大切な財産を、子どもたちのより良い未来につなげるために、
ワールド・ビジョン・ジャパンが心をこめてお手伝いいたします。
ささいなことでもかまいません、お気軽にご相談ください。

TEL: 03-5334-5355 (平日 10:00-17:00)

Eメール: donation@worldvision.or.jp



ワールド・ビジョン 遺贈



詳しいパンフレット（無料）をご用意しています

「ワールド・ビジョン・サマースクール 2025」参加者募集中



ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) は、日本の子どもたちが世界の現状をよく理解し、積極的に国際協力に参加していくことを願い、幅広い年齢層を対象として講師派遣や事務所訪問の受け入れなどの「グローバル教育」を実施しています。中でも、毎年夏休みに小学生の親子を対象に開催する参加型イベント「ワールド・ビジョン・サマースクール」は、世界のことを知り、考える機会となる人気のイベントです。20年目を迎える今年は、文部科学省の後援のもと、これまでよりさらに多くの方にご参加いただけるようになりました。オンラインイベントでは、バーチャルツアーでケニアの子どもたちに会いに行ったり、対面イベントでは『世界がもし100人の村だったら』(教材:開発教育協会)や、『水汲み体験』を実施したりと、いずれも自由研究にもぴったりの内容です。夏休みにお子さまと一緒に、世界に目をむけてみませんか。皆さまのご参加をお待ちしています。

昨年の文京区対面イベントの様子

オンラインイベント (Zoom)

7月24日(木) 10:00-11:30 **1-3年生** 定員: 親子500組
7月24日(木) 13:30-15:30 **4-6年生** 定員: 500名



バーチャルツアーでケニアの小学校や家庭を訪問

開催概要

対面イベント

[中野区] 会場: 中野坂上ハーモニーホール

7月29日(火) 13:30-15:30 **1-3年生** 定員: 親子50組
7月30日(水) 10:00-12:00 **4-6年生** 定員: 50名



「思っていたより重い!」と驚きの声があがる水汲み体験

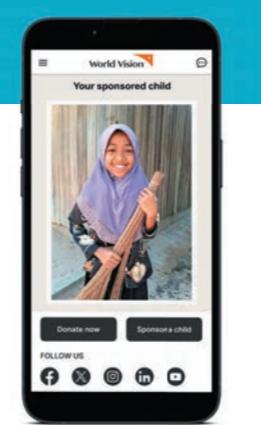
いずれも参加費無料

後援: 文部科学省、文京区教育委員会、中野区教育委員会
詳細・お申し込みは右記 QR コードから



新しいオンラインサービス「マイチャイルド」が始まります!

現在、新しいオンラインサービス「マイチャイルド」を開発中です。スマートフォンやパソコンから、チャイルドの写真・動画・成長報告のほか、現地で実施するさまざまなキッズプログラムや地域の活動などへのチャイルドの参加状況などもご覧いただくことができるようになります。



※画像はイメージです



企業研修を開催しませんか?

～企業向けの団体案内・活動報告を個別に実施できます～



WVJ では、企業をはじめとする法人の皆さんに向け、講師派遣を行っています。継続的なご寄付や、チャイルド・スポンサーシップを通じてご支援くださる企業経営者やご関係者の皆さんから、「社員がもっと積極的に寄付活動に参加できるような事例はありませんか?」というご相談をいただくことが増えています。こうしたお声にお応えするため、私たち法人窓口のスタッフが研修の場をサポートいたします。

CSR 研修や社員研修の一環として、ぜひ私たちを講師としてご活用ください。事前に打ち合わせを行い、ご要望に沿った内容をご提案いたします。研修は対面だけでなく、オンラインでも実施可能です。全国どこからでもご参加いただけますので、お気軽にご相談ください。

※内容によっては、ご対応が難しい場合がございますので、あらかじめご了承ください。

法人・特別ドナー課パートナーシップ推進チーム
電話番号: 03-5334-5355
Eメール: donation@worldvision.or.jp



クレジットカードの有効期限にご注意ください

クレジットカードのセキュリティを強化する国際的なルールの変更により、カード会社にて有効期限等の認証・確認が毎月行われる運用となりました。クレジットカードの有効期限が過ぎますと、ご寄付ができなくなります。カードの有効期限が近づいた、または期限を過ぎた際は、早めのカード情報の更新にご協力ください。

●お電話での更新:
03-5334-5351
(平日10:00-17:00)

●Webからの更新:
マイワールド・ビジョン



世界に思いをはせて Vol.16. 事務局長 木内(きない)真理子

『はじめてのおもてなし』というドイツ映画を見ました。ナイジェリアからの難民ディアロがドイツ人ハートマン家に身を寄せる間の出来事を、時にシリアスに、ユーモラスに描いた心温まる作品です。

ディアロが難民となった背景とともに映し出されるのは、現代社会の価値観に翻弄されるドイツ社会の戸惑いや葛藤です。ディアロのシンプルで人間味あふれる言葉が、自由や多様性に揺れる現代ドイツ社会の在り方に静かな問いを投げかけます。命の重みを知る難民の視点は、私たちが見落としがちな本当に大切なものを思い出させてくれます。



Photo by ソーシャルグッド / 指野部隆之